

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2023年11月

822



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



幅広い層とのつながりを広げるために



5面
ミニ運動会！
パパと乳幼児でのびのび遊ぶ

旭区

4面
一番の備えは地域で
声をかけ合える関係づくり！

防災講演会

浪速区

HB

人々の心の悩みに寄り添い、自殺を予防するボランティア団体、「関西のちの電話」の

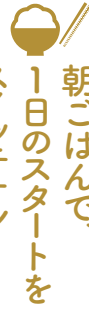
創立50周年記念式典が先日開かれた▼大きなスポンサーもなく、会費、寄付、バザーやコンサートなどで資金を集め、50年も継続するボランティアの組織力はすごい。さらに、無償で、深夜、電話に向かい合うボランティア相談員の個々の力もすごい。「電話を切ったら死ぬ」という人を相手に、2時間も3時間も暗い話を聞き続けるのだ▼当日の記念講演の講師は「裁判がない」「排除しない」包容力や、「答えのないことをどれだけ抱えられるか」というボランティアの力を、50年の継続のキーワードに挙げていた。専門家は解決することを目的にしているが、ボランティアは寄り添うことこそ大切だというのだ▼スポーツの秋、サッカーやラグビーでいう「オフサイド」をしない心構えだ。オフサイドとは、ゴールに向かってルールを破ってボールより前に出ることを言うそうだが、「半歩下がって」という気持ちでボランティアには必要なのだ▼相談員ではないけれど、ボランティアの心構えを学ぶいい機会を得ることができた。(石)

朝ごはんから学校生活を元気に Minami BREAKFAST OASIS

中央区



朝ごはんを、



1日のスタートを
スイッチオン

学校で朝ごはんを提供する「Minami BREAKFAST OASIS」が7月10日（第1回目）、9月25日（第2回目）に開催されました。主催は中央区子ども居場所連絡会（事務局・中央区社協）、共催は大阪市立南小学校PTAで、食事の提供は、区内（心斎橋辺り）にも店舗をもつ株式会社実身美から協力を受けました。

昨年6月に「さまざまな事情で朝ごはんを食べることができない生徒がいて、授業に集中できなかつたり、遅刻してくる生徒がいたりするので、朝ごはんを提供することで生活改善ができれば」と南小学校から区社協に相談があったことをきっかけに、打合せを重ねて、開催に至りました。

時間は、小学校の始業前の午前7時55分から8時25分までの間で自由に入りができるかたちで実施しました。連絡会に関わることも食堂や企業などさまざまなこどもの居場所支援団

体からのボランティア協力のもと、7時過ぎから準備をして、こどもたちを迎えました。



1回目の経験を
活かして2回目へ

1回目は、参加者数が予想できないため事前予約制にしたところ、9人の参加がありました。その後のふりかえりではPTAや保護者から「親のなかにはこの取組みを生活に困っているこどもが参加する場所と思っている人もいるのでは」などの声もあり、こどもは参加したいと

開催時の様子 (9月25日)



▲生徒同士で声をかけあい参加しました



▲「美味しい!」「おかわり!」と朝食は大好評

思っても、保護者が参加することに抵抗を感じている、また、こどもたちのなかにも参加することに恥ずかしさを感じていることもわかりました。

そこで2回目からは、まずは保護者やこどもたちに参加することへの抵抗感をなくそうと、事前予約をおこなわず、先生からの声かけや生徒同士が誘い合うなかで参加を促すようにし、16人の参加がありました。朝ごはんは、株式会社実身美がこどもでも美味しく食べられるよう、栄養満点のメニューを考

え、提供しました。ご飯を食べたこどもたちからは「美味しい!」「おかわりしてもいい?」と大人気でした。また、高学年の生徒が低学年の生徒の食事をサポートしている姿も見えまし

た。従事者は今後の活動につなげられるよう、こどもたちがご飯を食べる際に会話のなかで、「普段朝ごはんを食べているか」や、「朝食で希望するメニューはあるか」などを聞き取りました。

今後継続して 活動できるように

2回の開催を通して、株式会社実身美の川久保孝幸さんは、

「会社で運営しているカフェでこども食堂をしたいと思っていたところ、区社協から今回のお話があり、引き受けることになりました。栄養バランスのとれた食事を提供し、こどもたちからたくさん「美味しい」と言ってもらえたので、嬉しいで



▲9月25日のメニューは玄米ブレンドおにぎり、じゃこと青のりの卵焼き、鉄分入り自家製ウィンナーでした

す。定期的に開催し、活動を定着させ、参加者を増やしていきたいです。また、こどもたちの接し方も学んでいきたいです」と話しました。

1回目から関わっている区社協の小山実優地域支援担当主事は、「これまで中央区で朝食を提供するこどもの居場所支援がなかったため、少し不安もありましたが、学校、PTA、企業、こどもの居場所支援団体などさまざまな方のご協力のもとで開催でき、こどもたちがご飯を食べる姿を見ながら、継続性が必要な活動だと再認識しました。今後は安定して実施できるように活動者や支援者と打合せを重ね、この活動を中央区内のほかの学校にも展開していきたい」と話しました。

ボランティア・市民活動セミナー 「ちよつと立ち止まって考える、 ボランティア活動での小さな気づき」



ボランティア活動を ふりかえって

住吉区社協は、ボランティア・市民活動セミナー「ちよつと立ち止まって考える、ボランティア活動での小さな気づき」を10月6日に住吉区民センターで開催しました。



▲ボランティア活動のふりかえりを全体でおこないました

阪野さんは「今日一番伝えたいことは一人ひとりの『エエトコ』に注目することです」と語り、生活協同組合活動や被災地支援、子ども食堂など、さまざまな活動に携わり、培った経験から、『どちらがエエのか』ではなく、ボランティア活動を続けていくうえで大切なことは、『それぞれのエエトコ』を認め合うことです」と参加者へ伝えました。阪野さんが阪神・淡路大震災から長年いろいろな被災地で活動してきたなかでの出来事を一例として挙げ、避

活動の幅は 無限にある

しながら、阪野さんが約30年取り組まれてきた活動内容やそのなかでの気づき、大事にしていることが語られました。その後、参加者も現在している自身のボランティア活動をふりかえったうえで、活動の様子やボランティア活動をしていてよいところ、やりがいなどを語り合いました。

難所で最初から活動があったわけではなく、そこに集まった人で何ができるかを考え（コーヒーを淹れることができる方がいたら、避難所でコーヒーを淹れて配ってみよう、歌が得意な方には、子どもたちに歌をうたってもらおうなど）、「それぞれのエエトコ」を引き出して、形のないところから活動をつくりだし、つないできた経験も語られました。柔軟な活動をしてきた阪野さんでも、平成28年に子ども食堂を始める時には、他区の多彩な先行事例を学んだ際、「ハードルが高いと感じた」とのこと。研修会で講師の言葉を聞き、難しく考えずに、自分ができることからやっていけばいいのだと思うことができたという話も併せて伝えられました。

ボランティア活動の 魅力を改めて 気づきへ

参加者が自身のボランティア活動についてふりかえりを共有したところ「メンバー同士で活動のやり方や段取りの組み方な



▲参加者一人ひとりも自身の活動をふりかえりました

ど考え方が違うこともあるが、いろいろな知らない方とも出会えるきっかけになった。今はボランティア活動をしていてよかったと思っている」「子ども食堂をやっており、家では野菜を食べない子が、周りの子に刺激を受けて野菜を食べるようになったことが嬉しかった」などといった話がありました。また、参加者から今後には活かしていきたいこととしては、「上から目線にならないように関わり、人と人の信頼関係を深めながら、横のつながりを広げていきたい」「なかなか活動者が増えないが、今日の話を参考に自分たちのことを知ってもらい、参加したいと思ってもらえるよう、発信していきたい」などの声があがっていました。最後は、阪野さんから「固定したコミュニティだけでなく、異なるコミュニティにもつながりを広げながら、複数の人や団体との関係を築いていくことが大切で、活動を積極的に発信できるというのは」とメッセージが伝えられました。区社協の三宅陸斗地域支援担当主事はセミナー終了後「今回、自身で何らかの活動をしている参加者も多く、苦難や悩みを語ってくれた方もおられました。このセミナーで感じ取れたヒントを活かして活動を見直してみたり、新しい仲間を探してみたりして、活動の充実につながればと思います。区社協としても、それぞれの『エエトコ』に着目し、活動をより一層サポートしていきたいです」と振り返りました。



▲セミナー終了後の1枚（1列目中央：阪野さん）

防災講演会

一番の備えは地域で
声をかけ合える関係づくり!!

浪速区

防災をテーマに
つながる

浪速区社協は9月30日、浪速区役所で防災講演会を開催しました。講師には国境なき医師団として上海での医療支援経験のある国際災害レスキューナース・一般社団法人育母塾代表理事の辻直美さんを招きました。辻さんは上海から帰国後に阪神・淡路大震災で実家が全壊しているなかでも看護師として活躍し、現在はフリーランスの

ナースとして、学校・行政・企業などで防災セミナーを多数開催しています。

区社協は、若い世代にも防災について知ってもらおうと、地域でのつながりづくりのきっかけにもなるよう、区内の幼稚園や全小学校などにも周知し、当日は、部屋の最前列にマットを用意し、小さいお子さんがいる親子が椅子に座らなくても聴講できるように工夫し、67人が参加しました。

災害時は
日常生活の備え

辻さんは阪神・淡路大震災や大阪北部地震での経験をふまえて、「災害時は自分で自分の命を守らないといけない。普段から災害時に備えてコミュニケーションをしておく必要があります」と話しました。

また、災害時は情報を知っているか否かで大きく差が出るため、常に情報収集をしておく必要



▲辻さんから、今からできる防災術を学びました



▲アプリを使って地震診断を実施



▲新聞紙を使って、頭を守るワーク体験

があり、今すぐできることとして、「どんな災害に遭うのかを把握（地震や津波、住んでいるところによって被害状況が違う）」「何を大切にしているか（自身の生理欲求を満たせる備蓄品を用意できているか）」「防災対策を具体的に確認（防災品を実際に体験する）」などがあげられました。

後半では、災害伝言ダイヤルや災害時につながりやすい連絡手段、災害時に持参した方がいいものなど、クイズ形式で伝え、参加者が防災知識について改めて確認するとともに、知らなかった防災知識について楽しく学べる機会にもなりました。最後は、新聞紙を使って、頭を守る体験ワークをしました。2人1組となり、片方が頭を守る役、もう片方がたたく役となり、折りたたまれた新聞紙でどのような持ち方をすれば安全かを学びました。

結びとして、辻さんは「今日からできることをぜひやっていただき、災害に備えての決断力、行動力、アレンジ力を日常生活に取り入れながら高めてほしいです。一番の防災は、住んでいる場所での近隣とのコミュニケーションです。いつも声かけをしていると、何かあった時にあの人は大丈夫かと気にかけてくれることにもつながります」と話しました。

防災カフェに参加してみませんか？

最後に区社協からは、後日区社協で開催する「防災カフェ」について案内しました。これは、防災備品の体験や防災食を試食しながら、防災と聞いて感じる不安を参加者で共有し、知っている防災知識をどう活かしていくかなど、災害について考えることを目的とした催しです。

後日開催した「防災カフェ」には、防災講演会参加者のうち、親子を含め11人が参加しました。講演会の内容をふりかえり、さらに防災意識を高めました。

区社協の田村絵里地域支援担当主事は、「防災カフェの参加者からは、『楽しく防災の知識を学習できてよかった』との声があり、手ごたえを感じています。また、防災講演会終了後のアンケートでは、参加者のうち、86%の方が、地域防災訓練への参加を希望しており、『防災』は全ての人の共通テーマであると再認識しました。今後、防災カフェのような場を地域で展開し、防災に関心がありながら、地域と関わりが少ない方々に対して、地域でボランティア活動をしている人と地域活動につながられるよう進めていきたいです」と話しました。

旭区子ども子育てプラザ

パパと乳幼児でのびのび遊ぶミニ運動会！



夫とととと(父)で
「おとととと」

秋晴れの9月30日に旭区子ども子育てプラザ(運営:旭区社協)で「おとととと」が開催され、15組33人の0〜4歳児とお父さんが集まりました。「おとととと」とは、「夫」と「ととと(父)」をかけた、お父さんと子どもを対象にした集まりです。今年5月から月1回程度、土曜日に毎回テーマを変えながら実施しています。



▲音楽に合わせて「高い高い」。キャッキヤとした声が響き渡ります

今回は、「パパとミニうんどうかい」というテーマで90分間運動しました。まずは、講師を務めた一般社団法人コトモット代表の池田有美さんの掛け声に合わせて、お父さんのひざに子どもをのせて足踏みしたり、抱っこしながらぐるぐる回転させたりと家でもできる体操で準備運動をしました。その後、部屋のなかにたくさんのお遊具を設置し、自由に遊びました。ハンモックやトランポリン、玉入れなど、子どもの興味に合わせてたくさん体を動かしました。

後半は、2チーム対抗の運動会をしました。チーム内で自己紹介(ニックネーム、子どもの年齢、最近ハマっていることなどを共有)する時間を取り、最近のこどもの様子などを話しながら、お父さん同士も交流を深めました。月齢や年齢関係なく楽しめる遊びばかりで、終始笑い声が響き渡っていました。なか



▲いっせいのせで持ち上げたハンモックでゆらゆら



▲手引き車に子どもをのせてリレー。お父さんの本気を見せました

には、輪から離れて、遊び疲れて眠る子どもを抱っこしながらゆったりと過ごす様子も見られました。

パパ友をつくる
きっかけに

そもそも、「おとととと」の開催に至ったのは、子ども子育てプラザの利用者はお母さんといなかで、お父さん同士が交流できる機会がほしいという声があったことがきっかけでした。毎回、事前申込制にしており、初参加の方が半数を超えています。複数回参加しているリピーターも増えてきています。参加者のなかには、「妻に勧められて参加しま

した」「自分が子どもと出かけることで、妻がリフレッシュできる時間になればと思います」という声も多くあります。この行事を企画した子ども子育てプラザの鹿島諒マネージャーは「女性の社会参加が進むなかで、育児休暇を取るなどして積極的に育児をするお父さんが増えてきています。そのなかで、うまく悩みを相談できずにうつ状態になってしまうお父さんもいますが、母親の産後うつと比べて、なかなか周囲の理

解を得づらいという課題もあります。『おとととと』に参加してもらうことで、子どもと楽しく交流するとともに、気軽に相談し合えるパパ友をつくってもらいたいと考え、今回も自己紹介やチーム戦などで交流できる時間をとりました。お父さん同士で話すきっかけになったのではないかと思えます。今後、お父さんが子どもと一緒に行きやすい場所の一つとして子ども子育てプラザを活用してもらえようようにさまざまな企画をしていきたいです」と話しました。

ひとり親家庭応援プロジェクト！ 食品・日用品を通じて生活を支援



ひとり親家庭の 生活の一助に

港区社協は9月30日、港区民センターで「ひとり親家庭応援プロジェクト！お米券のお渡し」と称し、共同募金（テーマ型募金）を活用した取組みを実施しました。

区内在住のひとり親家庭医療証を持つひとり親家庭を対象として、午前10時から午後5時まで実施し、スーパーや米屋などで使うことができるお米券や、協力企業から提供いただいた食料品、日用品などを配付しました。お米券を配付するだけではなく相談支援などにつながるを持って欲しいという思いで、ひとり親家庭に関する相談ブースや子どもが遊べるブース、カフェブースを設置しました。

たくさんさんの企業や 団体と協力

この取組みは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、失業や休業などで減収した世帯を対象とした生活福祉資金貸付制度の相談対応がきっかけでし

開催時の様子



▲参加された方にお米券をお渡し



▲主任児童委員のバルーンアートやわなげを楽しむ子どもたち

た。特にひとり親家庭の方が生活に困っている現状を目の当たりにしたこと、さらなる支援の必要性を認識し、少しでも暮らしを支えることができればと考え、昨年度初めて実施に至りました。

今年度は、区役所のひとり親家庭サポーターや関係機関・団体の連携をより一層進めるために協力企業や団体、関係機関との打合せの場を設け、取組みの目的を共有し、昨年度以上にできることはないかと意見交換をしました。そこで「父子家庭の方が参加しづらいのでは」「親子で楽しむ時間にもなれば」等

の声があがり、遊びブースの設置につながりました。

当日は主任児童委員が参加者とコミュニケーションをとりながら物品を渡し、相談ブースではひとり親家庭サポーター・大阪マザーズハローワーク・港区母と子の共励会などの団体が参加された方々の日頃の悩みや就労についての相談などを伺いました。また、港区食生活改善推進員協議会（桜栄会）が飲み物を提供し、子どもたちがわなげやバルーンアートで遊ぶスペースの隣にカフェブースを設け、保護者が一息つける時間にもなりました。

より多くの方と 支援団体が つながるように

今回は、99世帯が参加され、親子で参加される方も多くみられました。参加者からは、「食品や日用品だけでなく、化粧品まであってすごく助かりました」「いままで知らなかった支援団体も知ることができてよかったです」「たくさん物をいただいたことができて、また、子どもも遊んでもらえて楽しそうでした」などの声がありました。

区社協の真鍋楓子地域支援担当主事は、「今年は土曜日開催だったので多くの方が参加されました。昨年のふりかえりで見聞のあった父子家庭の方も何名かの参加があり、今年度追加された遊びブースについても親子がわなげやバルーンアートで遊び、笑顔で帰られる姿を見ることができてよかったです。今回、ゆとりをもって相談ブースに案内できなかったこともあり、今後は、スムーズな流れで安心して相談してもらえよう工夫が必要だと思えました。次回開催に向けて、多くの団体や企業に参画、協力し

てもらい、より一層広く周知したいと思えます。区社協としても関係機関とのつながりを持つ良い機会になりました」と話しました。

メッセージカード

- がんばって子育てしているなか、生活を助けてもらい、とても励みになりました。
- お米券！本当に助かります。
- ステキな品物だけでなく、子どもも遊んでもらい、ありがとうございました。



▲メッセージカードで感謝の言葉を伝える

今年も10月1日から共同募金運動を「つながりをたやさい社会づくり」を共通テーマとして全国一斉に実施しております。寄せられた寄付金は、みなさまの地域で困窮や孤立など助けを必要としている人たちを支援する、さまざまな活動に役立てられます。

大阪府共同募金会は10月1日には、なんばウォークのクジラパークにて、街頭募金及び広報・啓発活動を実施しました。大阪府内の市区町村でも、募金活動をおこなっています。大阪の地域福祉へのご支援ご協力をよろしく願っています。



スマホからも
寄付できます



街頭募金活動
(市社協職員)

市社協職員有志の15人が10月2日の夕刻、天王寺区上本町六丁目交差点周辺で、街頭募金活動をおこないました。この取り組みは、市社協においても共同募金の配分金を活用して多くの事業を実施していることから、市社協職員が貴重な財源である共同募金の大切さを再認識することをねらいとして、平成16年から毎年取り組んでおり、今年で20回目を迎えました。会社帰りの方や子どもたちなど、たくさんの方々に協力いただき、26,600円の募金が集まりました。また、10月1日にはなんば

大阪	
令和5年度目標額	790,000,000円
内 一般募金	560,000,000円
訳 歳末たすけあい募金	230,000,000円
令和4年度実績額	548,718,783円

募金運動について、詳しくは、大阪府共同募金会ホームページをご覧ください。

<http://www.akaihane-osaka.or.jp>

赤い羽根おおさか

ウォークのクジラパーク、10月21日には四天王寺境内西重門付近にて、大阪府共同募金会が主催する街頭募金に市社協職員も参加しました。



▲上本町六丁目交差点付近



▲なんばウォークのクジラパーク



▲四天王寺境内西重門付近

共同募金は、3月31日まで実施され、地域福祉事業や、社会福祉団体・ボランティア団体等の活動支援、災害復興支援など、さまざまな福祉課題の解決をめざし、活用されます。

風をよむ

子どもが有する「境界線」を大切にできる社会へ

大阪公立大学大学院生活学科研究科 中島尚美

11月は子ども虐待防止推進月間である。子ども家庭庁によると、令和4年度に全国の児童相談所が相談対応した児童虐待件数(速報値)は21万9170件と過去最多であった。子どもへの権利侵害がこれだけ多く起こってしまっている。そして、これは子ども自身が有する「境界線(バウンダリー・身体・性・気持ちや考え方・持ち物・空間等)」を意識できていない大人の存在を示すことになる。

はならないことを認識しなければならぬ。特に性の境界線が越えられた場合は、子どもが「NO」を言っていないこと、言えない状況にあるときにはその場から離れて逃げることを、信用できる大人に相談すること等を同時に伝えておく必要がある。またSNS上の境界線は固く守られるべきである。

虐待相談対応件数の6割は心理的虐待であり、その大半が面前DV(ドメスティックバイオレンス)によるものが占める。面前DVは、直接子どもが攻撃を受けるわけではないと認識されやすいが、両親間等の家庭内暴力を続けて頻繁に目や耳にすること自体が、子どもの気持ちや空間、時間の境界線を越えてしまっていることを意味する。

そして、私たちが取り組まなければならない課題は、虐待通告という行為に留まらず、また事後対応の一時保護や見守りに期待するのではなく、事前対応として子ども自身が「境界線」を有する存在であることを認識できるように、育つ環境から整えていくことである。子どもがあきらめや絶望感を抱いてしまう不適切な関わり(マルチリトメント)が横行することのない社会を築く必要がある。大人は子どもを人として尊重して対応すること、すなわち対等性が担保された関係性を基軸とした社会を築いていくことが急務である。

令和5年度 地域福祉シンポジウム

コロナ禍のその先へ

— 孤独・孤立や生活困窮の課題に地域・関係団体等と協働して取り組む —

約3年にわたる新型コロナウイルス感染症の影響から、「孤独・孤立」「生活困窮」など、さまざまな背景をもつ方々の問題がより一層顕著となりました。

「孤独・孤立」「生活困窮」などに至る前から地域のなかでつながりをつくることのできる豊かな地域づくりが求められています。

本シンポジウムでは、講師による講演と、社協職員による報告から、社会的孤立の現実や支援の実際、住民や企業・団体などとの協働による実践事例を共有します。

開催日時

11月30日(木) 午後2時~4時

開催場所

大阪国際交流センター 大会議室さくら(西)

大阪市天王寺区上本町8-2-6

近鉄線「大阪上本町」駅14番出口から徒歩6分、地下鉄「谷町九丁目」駅10番出口から徒歩8分



講師・パネルディスカッション
コーディネーター
武庫川女子大学
まつのはな かつ ふみ
松端 克文 教授

実践報告者

● 鶴見区社会福祉協議会 松本 みきさん

「見守り相談室としての
社会的に孤立している方への支援」

● 淀川区社会福祉協議会 前田 歩美さん

「こどもレスキュー事業を通じて支援の幅を広げる」

対象

テーマに関心のある市民、関係者

参加者募集!

定員 **150人** ※事前申込制・先着順

申込み方法 申込みフォーム等からお申込みください▶

申込締切日 **11月24日(金)**



問合せ先

大阪市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL 06-6765-5606 MAIL fukusi@osaka-sishakyo.jp

市社協からの
お知らせ

ホームページを
リニューアルしました

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家財の保険 火災の保険

www.ms-ins.com

大阪社会福祉協議会

地域福祉の力で
やさしさとぬくもりあふれる
まちづくりを

大阪府社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会

より多くの人に分かりやすく情報を届けられるよう
11月1日にホームページをリニューアルしました!

ホームページはこちら▶
<https://www.osaka-sishakyo.jp/>

